

今月の谷口雅春先生のお言葉

家庭を明るくし、子供の善さを引き出しましょう

にこにこした顔に

すべての善いものが集ってくる

明るい生活の中にはすべての善いものが集ってくるのです。昔から「笑う門には福来る」という諺があります。にこにこ笑っていると、自然に善いことが集ってくるのです。人をたのしく愉快にしてあげるとは美しい行いであり善いことでもあります。その楽しく愉快にしてあげるには、色々の贈物をさしあげるのも、一つの方法でありますけれども、物をさしあげなくとも吾々が

にこにこたのしい顔つきをして、たのしい心を他の人に移してやればそれが最も深切な、人に幸福を与える方法であります。
(新版『生活読本』135～136頁)

幸福とは心が楽しいことです

家の中に1人でも不機嫌な人がありますと、その家の人達の心全体が乱れてくるのです。そして家族は始終病気をしたり、面白くないことばかり起ってくるのです。そんな家に住んでいる人は、お金が百万円つんであっても幸福だということはできません。幸福な生活とは心が

たのしい生活です。家族互いにうれしそうな顔をしてにこにこせずにはいられない生活が幸福な生活です。

（新版『生活読本』136頁）

あなたの明るい顔が必要なのです

うれしい顔をするには何の資本もいりません。深切な目付きをするにも何の資本もいらぬのです。吾々は、この人をよろこばしてあげたいとただ思うだけで深切な顔になれたり、愉快な微笑を顔に浮べたりできるのです。あなたの愉快な顔つきは曇った日にさしこんで来た太陽の光のようなものです。周囲の人が苦虫をかみつぶしたような顔をしていればいるほど、あなたの明るい顔が必要なのです。どんな富や財産をもっているよりも明るい心をもっているものは、もっとも尊い宝をもっているものだといわなければなりません。（新版『生活読本』144頁）

子供への愛を言葉に、表情に、表現すること

どなたでも子供を憎むという人はないのですが、子供を愛している表現が少ない時には本当に愛してくれていないのだという親に対する恨みがましい気持が出てくるものがあります。（中略）子供というものは親に愛されるということが、もう一番の楽しみなのです。親に愛されている子供は、親のためなら、親の喜ぶことなら、たとえ火の中水の中に入っても、命を棄てても厭わぬという感激をもつのです。そういう親をもつ子は親に喜ばれるためにいくらでも善いことをいたします。ところが親が子を愛しているということを言葉にも表情にも表現しないであまり仕事が忙しいとか、何か自分にくしゃくしゃする事件があつた時などに子供につっけんどんに当たる——それがいけないのです。愛は心のうちにもついても表現してもらわなければ愛してもらつたような気が

しないのです。心の中に愛があつても、顔でしかめ面している。「どうもうちのお父さんはこわい」とか「お母さんは叱しかつてばかりいる」とか思うようになるのです。これに反して言葉でも、形でも愛してやるといふようにいたしますと、必ず子供は親に従順になつてきまして、親がこうなつてほしいといふように必ず子供から進んでさうなつてくれるのです。

〔『生命の實相』頭注版第40巻37〜38頁〕

子供の善さ、美点、長所を強調しましょう

如何いかに潜在的せんざいてきに存在そんざいしていようと、認めなければそ

れが存在そんざいしていることが現実に見えて来ないのである。如何に多くの宝くらが庫くらの中に蔵しまわれていようと燈火ともしびがそこになければその宝は無ないに等しい。だから諸君よ、諸君の子供にそして諸君の教え子に宿とどつているところの「神性しんせい」(神かみからの大遺だい伝でん)を認めることから始めよ。(中略)

諸君よ、先まず子供に教えよ。彼自身の生命の尊さを。

——人間の生命の尊さを——そこには無限力の神が宿とどまっていることを。展ひらげば無限の力を発し、無限の天才をあらわし、彼自身の為ためのみならず、人類全体の輝きとなるものが彼自身の内に在あることを教えよ。彼をして彼が地上に生命を受けて来たのは、自分自身のためのみでないこと。人類全体の輝きを増し、人類全体の幸福を増すために神が偉大な使命を彼に与えて来たのであることを教えよ。この自覚こそ、最初の最も根本的な自覚であつて、この自覚が幼児に植え付けられたものは必ず横道よこみちに外はずれないで、真まことに人類の公おおやけな飲よろこびのため何事かを奉仕しようとして喜び励むむ人になるのである。

常に子供に鞭撻べんたつして、彼の善さを力説せよ。彼の美点を強調せよ、自分自身の有もつ長所を自覚せしめよ。ここに子供を教養する極意ごくいがあるのである。

(新編『生命の實相』第22巻170〜174頁)